

# はぐくみ会だより

第 29 号

平成22年 4月 1日



所蔵作品紹介

(28)

(51×63cm)

「江東落日」 佐藤仁視作

佐藤先生は、昭和2年中国の山東省青島に生まれている。昭和20年に本校図案絵画科を卒業され、その後、東京美術学校本科師範科に進まれ油画を専攻された。在学中は寺内万次郎に師事されている。卒業後は、県立小杉高校をかきりに、約十年間隔で高岡、富山、富山中部高校で美術の教鞭を取られ、本県美術教育の要職を多数歴任されている。

私事で恐縮であるが、先生は私の高校時代の恩師である。在学中も卒業後も大変お世話になった。数々の思い出があるが、温厚なお人柄で、そこはかとなく芸術家らしい飄々淡々としておられた姿が強く印象に残っている。

この作品は、先生が27歳の時のものである。川縁りの風景を多く描いておられるが、晩年の明るい作風とは異なり、厚塗りされた絵の具の色調は重く沈積し、見る者の心に迫りくるものがある。中国で過された幼少期の原風景であろうか。否、敗戦で荒廃した東京の下町を見つめられた師の悲しみの声も聞こえてくるようだ。人生の哀切がキャンパスの中で蠢き、咆吼しているようにも見える。

不慮の事故による享年59歳の急逝はあまりにも唐突であった。額縁から外したキャンパスは赤褐色に変色し、題名と制作年を書かれた文字が懐かしく読まれ、目頭が熱くなった。奇遇にも私が生まれた年の作品であった。

先生のご冥福を心よりお祈りします。

(文責 青井記念館美術館館長 谷川)

### 第16回 青井中美展

11月18日(水)～  
12月6日(日)

青井中美展も多くの方々のご支援とご協力に支えられ、今回で第16回展を迎えました。県内全ての中学生を対象とした美術公募展として定着してきましたが、今年は参加校50校、応募作品数637点、うち入選355点となり、平均入選率は55.7%でした。期間中は、中学生をはじめとする845名の来館者があり、盛況のうちに幕を閉じました。

#### 各賞受賞者

- 青井大賞 松下侑里香 (高岡養護)
- 富山県知事賞 圓佛和司 (高岡養護)
- 富山県教育委員会教育賞 加賀見智子 (出町)
- 最優秀賞 出合由紀花 (大谷)
- 優秀賞 藤村由翔枝 (高岡西部)
- 富山新聞社優秀賞 紅井里緒菜 (高岡西部)
- 優秀賞 チューリップテレビ優秀賞 櫻井杏純 (石動)
- 富山新聞社優良賞 岡崎美帆 (新湊南部)
- 富山新聞社優良賞 柴田美玲 (奈古)
- 富山新聞社優良賞 室腰一成 (南星)
- 富山新聞社優良賞 武内由佳 (水見西部)
- 富山新聞社優良賞 竹中泳花 (吉江)
- 富山新聞社優良賞 今井祐花 (吉江)
- 富山新聞社優良賞 安原愛 (伏木)
- 富山新聞社優良賞 関口あゆみ (魚津東部)
- 富山新聞社優良賞 佐々木康介 (福野)
- 富山新聞社優良賞 市田真久 (出町)
- 富山新聞社優良賞 宝田尚久 (志貴野)
- 富山新聞社優良賞 荒谷礼奈 (奈古)
- 富山新聞社優良賞 大澤紗遥 (中野)
- 富山新聞社優良賞 平澤英彦 (富大附属)
- 富山新聞社優良賞 大岩望沙 (大谷)
- 富山新聞社優良賞 特別賞 福田望沙 (吉江)

#### ● 青井大賞

##### 「機動」

松下侑里香さんの作品  
等角図法、遠近法を巧みに用いて構成された力作である。数種の幾何形を背景に、具象的な手の指の動きを組み合わせた視点がきわどく、ピピッと色調がメカニカルな画面構成と良く響き合っている。



#### ● 富山県知事賞

##### 「NIGHT ZOO」

圓佛 和司君の作品  
闇の中で息づく動物たちのイメージが、形にとらわれず個性的な色づかいで表現されている。童心に返らせ、楽しく幻想的な世界に引き込むユニークな作品である。



● 富山県教育委員会教育長賞  
「この手に掴むもの」 加賀見智子さんの作品  
彫塑の基礎である、バランス、動勢、質感がしっかりと押さえられた作品である。伸びやかなフォルムは、「希望」を掴み取るうとする作者の思いが凝縮され作品からにじみでている。



講評会の様子

#### 「機動」を描いて

射水市立大門中学校3年 松下侑里香

私が今回「青井大賞」を頂いた「機動」は約4ヶ月という長い期間をかけて描きました。美術で習った平面構成に工夫を取り入れた作品です。制作した作品は「希望に向かって動き出す心」を表しています。何とかその思いが多くの人に伝わるよう、最初のスケッチでは「人間の手」を画面に入れていました。しかし、背景との調和がとれず画面の一体感がありませんでした。そこで手の部分を透視図法を使って表現したところ、今にも機械が動き出す力強さを表現することができました。この作品は、細かな形の変化・色の変化が多く、気を使う作業が多かったです。でも、この絵を多くの人に伝えるため、手を抜くことなく仕上げました。それも私を陰から支えてくれた先生のおかげです。この作品の感じ方は、人それぞれだと思います。しかし、そこで自分の心の世界を創りたい欲しいのです。絵を見てくれた方々の心の機動を感じ取ってもらいたいのです。そして、前に進むための力になってくれたら嬉しいです。私もまだ、進むべき道は長いですが、この絵を思い出して前に進もうと思います。

### 卒業課題展

2月28日(土)～3月5日(木)

学校長 池田 満

卒業課題展は、3年生の生徒が課題研究や実習の時間に、個人やグループでテーマを決めて、一年間かけて制作した作品を展示するもので、卒業式の後など多くの人に見ていただきました。  
展示されている作品は、なるほどと周りの人をするならせるもの、思わず手に取って動かしてみたくなるもの、高校生らしい豊かな感性が感じられるものなど、どれも生徒達の苦勞の跡や将来の可能性を感じさせるものばかりでした。

ものづくりにおいては、自分で工夫したとか、最後まで諦めずに自分の力で問題を解決したといった経験が、自信につながり、やがてそれが社会で通用する本物の力となっていきます。3年生の諸君には、それぞれの道でこうした経験を生かして欲しいと思います。



作品を見学される保護者

第56回

同窓生ギャラリー

12月17日(木)～1月10日(日)

岩城信嘉 木版画展

故岩城信嘉氏は昭和10年に城端町の石材屋の家に生まれ、本校の図案絵画科では日本画、洋画を学ばれました。卒業後、家業を継ぐ傍ら美術作家を志し、石彫作家として県内外の美術展や国際展に出品された他、晩年は大自然の背景と巨石を組み合わせた新しい表現の実験を米国や石川、富山の海岸などで行っておられました。



本展は60年余に亘る作家活動から、最晩年に創作された「世情悪化慨嘆」の木版画16版を中心に、石彫作品4点、オブジェ3点、創作エスキース数点を展示しました。また、故人の紹介コーナーでは、氏が生前行われた展覧会のポスターや画集なども併せて展示しました。

木版画の一連の作品は、氏が病床にありながら精力的に制作されたもので、絵本を彷彿とさせる民芸風の図柄や風刺の利いたストーリーなど楽しく味わえる作品でした。石彫やオブジェの作品は、斬新な感覚で新しい造形美を生み追求された氏の姿勢が貫かれたもので、晩年の

インスタレーション(空間・環境芸術)への予兆を感じさせるものでした。

この度の展覧会開催に際し、ご遺族のご理解とお力添えに厚く御礼申し上げます。

第57回

同窓生ギャラリー

1月17日(日)～2月21日(日)

第10回記念

一期一会展2010～10年目の軌跡

林正人氏(S59年デザイン科卒)を中心とした異分野作家の交流展は、2001年に当館で第1回展を開催して以来、数多くの参加者と交流し作品発表をされてきました。

記念展には陶芸、木工、アクセサリー、トンボ玉、スタンドグラス、ブリザーブド・フラワーなど参加会員20名の多種多様な新作が飾られ、満開に咲く花を連想させる華やかな会場となりました。なかでも、林氏はグラフィックデザイナーとして、高岡市の名所旧跡の写真を配した「万葉かるた」の作品や、会員の活動を紹介する「繋ぐ」誌の展示を、又、花嶋さんは陶芸作家として大型花器や愛らしい雛人形を並べるなど、それぞれの若手作家のみずみずしい感性の作品に、来館された方々も興味深く見学されていました。

参加会員は県内と石川県から集い、展覧会も高岡市、富山市、金沢市などで開催されました。その様子は新聞、テレビ、広報誌等にも広く紹介され、冬季の展覧会ながら数多くの来館者がありました。会場では会員の方々も熱心に作品の説明され、和やかな雰囲気での展覧会となりました。

これからも尚一層研鑽を積まれ、魅力ある作品を発表していただきたいと思います。



各科最優秀作品

工芸科



ローテーブル

電気科



フラッシュザウルスの製作

機械科



障害物回避ロボット製作

デザイン科



薬品パッケージの提案

建築科



高岡市都市模型

電子機械科



ロボットハンドの製作

今年の卒業課題は例年とは違い、自由な作品を作るのではなく障害物回避ロボットを製作するというものでした。このこともあり、私たちの班は昨年の尚美展においてミニチュア・ロボットの試作を手付けしました。

私たちの班はメンバー全員が運動部で、ロボット製作についての専門知識がありませんでした。そのような状況でロボット2台を作るのは大変な苦労がありました。放課後や休日を利用し、全員で協力しあってロボットが完成したときはとても嬉しかったです。

卒業課題をとおして、班で一つのものを作り上げるには、チームワークが一番大切だと強く感じました。

3H 機械科 山本 慎平

### 常設展Ⅲ期

12月17日(木)～1月10日(日)

#### 「おもいででの作家たち」展

昭和50年代から近年までに他界された卒業生や旧職員の先生方の作品を展示。日本画では昇外義、十  
二町仁三他4名。洋画では古川  
通泰、鶴谷登他4名。また、彫  
刻では旧職員板橋一步先生の作  
品。工芸では金森映井智、野上  
隆、新敷孝弘、山本興山他5  
名など合計29点で会場を飾り、  
来館者は生前に活躍された故  
人を偲びながら、懐かしく鑑賞  
されていたのが印象的でした。



### 常設展Ⅳ期

3月13日(土)～4月18日(日)

#### 「工芸高校の美術工芸」展

本校が収蔵する美術工芸品は740点余となり、近年は、現在活躍されている卒業生からの寄贈の他、本人、父、祖父三代の作品を一括寄贈される方もあり、内容も益々充実してきました。

本展では、創校時に工芸品陳列場から受け継いだ絵画、工芸品に加え、実習の授業で用いられた手本、さらに明治、大正、昭和における秀逸な卒業生の在校時の習作なども展示し、あらためて本校の美術工芸とその教育の奥深さを感じていただきました。



### 新収蔵作品展

3月13日(土)～4月18日(日)

平成6年の創立100周年記念には、卒業生の有志の方々から70点余の作品が寄贈されています。今回の展覧会ではその内の26点を各分野から選び展示しました。既に他界された作家の作品も含まれ、来館者も感慨深く鑑賞されていました。

展示作品の中に、2名の旧職員の作品を展示しました。尾長保先生の漆芸作品「渚の幻想」は、永遠のテーマであった深海の魚を抽象的な表現と新素材を使って表現されています。また、谷口義人先生の彫刻「ピエロ」は、人物のトルソを水玉模様で、新姿で表現したもので、新鮮で明快な印象の作品です。  
新たな収蔵品の充実を期待したいものです。



谷口義人先生の作品「ピエロ」

### 寄贈作品の紹介



◆須賀正純 作  
「花響」(蝸型鋳造)

作者寄贈 (高岡市在住)



◆松下侑里香 作  
「機動」(デザイン)

作者寄贈 (高岡市在住)



◆立野雪郷 作  
「二月 農家」(日本画)

八川達子様  
(富山市在住) より寄贈

### 催事案内

- 常設展Ⅰ期 四月二十七日(火)～七月三十日(金)  
同窓生キャラリ
- 第58回 四月二十七日(火)～五月二十三日(日)
  - 第59回 六月一日(火)～六月二十七日(日)
  - 第60回 八月十日(火)～八月二十九日(日)
  - 第61回 九月十四日(火)～十月三日(日)
- 文化部合同展 七月十日(土)～七月三十日(金)

### 編集後記

美術館の催事も諸先生方や卒業生のご協力により予定通り進み、年度末の報告である「はぐくみ会だより第29号」を発行いたしました。

19年度には、前館長竹田員郎氏の後を受け、「尚美展100回記念特別展」を開催しました。なかでも千葉県立美術館より借用した芸術院会員・山室百世氏の作品展示や芸術院賞受賞者の紹介など思い出深いものがあります。

20年度には、「茶道具展」、また、「特別寄贈名品展」では創立80周年の寄贈である初代校長の掛軸、100周年に青井忠雄氏より寄贈された山崎覚太郎氏の漆額「鹿」などを展示させていただきました。気品ある展覧会展として好評でした。

21年度には、高岡開町400周年記念に関連させた「彫刻家の群像展」として、創校から現在までの指導者と作家を紹介。次の「高岡のものづくりを育んだ人々展」では明治、大正、昭和の美術・工芸を先導された方々の作品や、国内外の展覧会への出品作品等を企画して紹介しました。

さて此度、私は館長職を辞することとなりました。3年間は記念行事とも重なり思い出多い企画の一端を担当させて頂き、良い経験となりました。これからも工芸高校の収蔵品と卒業生の作品発表の場として、市民に親しまれ愛される美術館であるよう願っています。ありがとうございました。

(青井記念館美術館館長 城宝清司 記)

### 編集発行

富山県立高岡工芸高等学校  
青井記念館美術館はぐくみ会  
住所 933-8518 高岡市中川一-120  
TEL (0766) 21-1630  
FAX (0766) 21-1631

富山県立高岡工芸高等学校  
青井記念館美術館はぐくみ会

==== 会員募集 ====

お願い

富山県立高岡工芸高等学校では、創立100周年にあたる平成6年に、青井記念館を移転新築し、一階を青井記念館美術館として一般に公開いたしております。

高岡工芸高等学校は明治27年、地場産業を背景に、木材彫刻、金属彫刻、鋳銅、髹漆の4科よりなる富山県工芸学校として設立され、以来時代の進展とともに何度か学科の改編を経ながら、全国でも数少ない工芸学校として、今日まで多くの美術工芸の偉才を輩出して参りました。

高岡工芸高等学校では、こうした卒業生の優れた作品をはじめ、これまで教材として収集された貴重な美術工芸品や教職員の作品など、所蔵作品を美術館で展示公開し、地域に開かれた学校づくりをめざしています。

また、常設展、企画展の他に公募による青井中美展（中学生美術展）、同窓生ギャラリー、美術教室などを開催し、青少年の美術教育の推進や地域社会の芸術文化の向上に寄与し、地域にねざした特色ある学校づくりをめざしています。

青井記念館美術館はぐくみ会は、このように全国に例のない高岡工芸高等学校の特色ある活動を支援するとともに、会員相互の芸術に対する理解を深めることをねらいとしています。

なにとぞ、本会に対して深いご理解をいただき、はぐくみ会へご参加下さいますようお願い申し上げます。

富山県立高岡工芸高等学校  
青井記念館美術館はぐくみ会

会 長 玉井 晶夫

-----  
青井記念館美術館について

本校の青井記念館美術館は、昭和38年に故・青井忠治氏（大正11年本校卒、株式会社丸井創始者）より寄贈いただいた図書館とギャラリーを擁する旧青井記念館が、道路拡幅にともない移転の必要にせまられておりましたところ、時を同じくして本校創立100周年（平成6年）を迎え、その記念事業として移転新築したものであります。

新築にあたっては、青井氏のご家族の深いご理解と県当局の深いご支援をいただきました。

本校は、創立以来、教職員や生徒・卒業生の優れた美術工芸作品の収蔵に努めて参りました。移転新築を機に所蔵作品を一般公開し、広く県民に親しまれる美術館をめざしております。

当美術館は、年に数回、展示作品の入れ替えや特別展など企画いたしておりますので、年間を通しての御来館をお待ちしています。

今後とも皆様の暖かいご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。

# 富山県立高岡工芸高等学校 青井記念館美術館はぐくみ会

「青井記念館美術館はぐくみ会」は、青井記念館美術館の特色ある活動の支援、及び会員相互の芸術・文化に対する理解を深めることをねらいとして平成6年9月15日、高岡工芸高等学校青井記念館美術館開館とともに発足致しました。本会ではひろく会員を募集致しております。皆様の御協力、ご理解をいただき、はぐくみ会へご参加下さいますようお願い申し上げます。

## 1 主な活動・目的

- ・ 青井記念館美術館への協力・支援
- ・ 中学生美術展（青井中美展）への支援

## 2 特典

- ・ 企画展などの案内
- ・ はぐくみ会だより・展示会パンフレットの配布
- ・ 美術教室への優先参加

## 3 年会費（申し込まれた日から一年間会員となります）

|               |         |
|---------------|---------|
| 一般会員（個人）      | 2,000円  |
| 特別会員（企業、団体など） | 10,000円 |

## 4 申し込み方法

入会申し込み用紙を下記までお送り下さい。（電話・FAXでも受け付けております。）  
会費納入は振り込み、郵送、直接持参のいずれかをお願いします。

●振り込み先：富山県信用組合  
高岡北支店  
口座番号 2011105  
富山県立高岡工芸高等学校  
青井記念館美術館はぐくみ会

：郵便局  
郵便振替口座番号 00710-0-31367  
富山県立高岡工芸高等学校  
青井記念館美術館はぐくみ会

## 5 お問い合わせ・申し込み先

富山県立高岡工芸高等学校 青井記念館美術館 はぐくみ会  
住所 〒933-8518 高岡市中川1-1-20  
TEL 0766-21-1630 ・ FAX 0766-22-1631

キ リ ト リ セ ン

### 申し込み用紙

|     |       |   |
|-----|-------|---|
| 氏名  | ( 才 ) | 一般会員 ・ 特別会員                                       |
| 住所  | 〒     | 会費納入方法<br>1. 郵送<br>2. 振り込み（ 県信 ・ 郵便局 ）<br>3. 直接持参 |
|     |       | ご意見   |
| 勤務先 | TEL   |   |